



ミンガラバー

こんにちは

NPO法人
日本・ミャンマー
医療人育成支援協会
〒700-0811
岡山県岡山市北区番町2丁目6番7号
TEL:086-224-0102
URL:http://www.mjcp.or.jp

ミャンマー

何故かなつかしい国

東京大学名誉教授 元医学部長
協会理事 石川隆俊

太平洋戦争(大東亜戦争)は多くの日本人にとって遠い昔のことになったようである。日本・ミャンマー医療人育成支援協会の理事長であられる岡田茂先生がビルマの国を限りなく愛し、医学上の支援に情熱を傾けてこられたのは先生のご尊父への思いがあるのではないかと思う。

先生と同年代の私は東京大空襲で赤く燃える東の空はるか上空を飛ぶB29のことをはつきり覚えている。最近までビルマでの戦争の内容は知らなかったが、東大医学部の同級生磯山君が先輩の塩川優一順天堂大学名誉教授(リウマチ学)が書かれた『軍医のビルマ日記』を貸してくれた。北ビルマでの激戦から傷病兵を連れラングーンに敗退するまでの記録である。ビルマ戦争について書かれた本は枚挙にいとまはないが少し読んでみた。

日本軍はマレー半島のコタバルに上陸しシンガポールを陥落させ、続いてラングーン(今のヤンゴン)を占領しビルマを英国の支配から解放した。当時、英米連合軍はインドのレドから中国雲南省昆明まで1200kmに及ぶ輸送路を築いていたが(レド公路)日本は北侵しこの輸送路を寸断した。このレド公路をめぐる連合軍と日本軍の攻防が有名なインパール作戦である。食料を現地調達しようとした日本軍の無謀な戦略は戦争が長期化するにつれて食料兵器の強力な後方支援(ロジスティック、軍の用語で兵站)を得ていた連合軍に対抗するすべもなく日本軍は孤立し18万人もの戦死者を出した。その78%が戦闘ではなく疫病と飢えによる死であったという。岡田先生のご尊父はイラワジ川を筏で漂流して生きて帰られたと聞いた。先生は、こうしたビルマでの話を聞いておられたので特別な懐かしさを感じられたのであろう。

1996年の暮、私は岡田先生の率いる国際学術研究の班員として初めてビルマを訪れた。以後毎年何回か、二緒させていた。一連の海外学術調査研究についてはミンガラバーの14号に小路武彦理事が書かれておられるが、当時ミャンマーは国際的に孤立していき、わが国の官公庁も公の援助をほとんどやめてしまった。中で岡田先生が獲得された。この研究だけは続けられた。先生のご尽力とともに文部科学省の判断で残されたこの研究は、わが国とミャンマーとの細い架け橋でもあったのである。私どもは肝臓がんの遺伝子異常についての研究をお手伝いするために外科的に切除された肝臓のサンプルを日本に持ち帰り研究した。

訪れたミャンマーはタイムマシーンで引き戻されたように私を魅了した。そのとき日本の研究室に、やっとの思いで送ったファックスが今も残っている。人々は貧しいが懐っこい優しい顔をしている。ロンジーというスカートのような衣装を着て顔におしろいのような粉を塗っている。茶黄色の衣をまとった僧侶が多く、僧衣を着て頭を丸めた子どもがかわいい。親日的で日本軍の指揮下にあった軍隊は今でも日本式の号令をかけ軍歌を斉唱したのには驚いた。今ミャンマーはめまぐるしく変わっている。心配した電話も通じ食べ物もホテルに限り衛生的である。我々一行は岡田教授、ポール中根教授、武田教授、小路教授ら6名で私以外みな数回ミャンマーに滞在経験があるベテランであった。ミャンマーは不思議な国で、ここに来ると「ミャンマー狂」になると聞いた。その後私もいくらかその部類に入ったかも知れない。



▲思い出のビルマの豎琴と帽子

第4回(平成21年度)定期総会報告

《開催日時》平成21年6月17日(水) 午後7:00~ 《開催場所》岡山シティーホテル厚生町 特別講演 AMDA代表 菅波 茂 理事長「私たちが世界に発信するメッセージ」

特定非営利活動法人日本・ミャンマー医療人育成支援協会の第7回理事会、第4回定期総会は去る6月17日、オカヤマシティーホテル厚生町で開催されました。6時からの理事会の後、AMDA代表菅波茂理事長の総会講演「私たちが世界に発信するメッセージ」を感動を持って聞かせていただきました。総会開催時の会員数386名。出席者は委任状を併せて239名、議長には岡田理事長。平成20年度の事業報告では、パイン・ソウ保健省副大臣一行4名の招聘と学術交流の成果の確認、3名のミャンマー医師の岡山大学、川崎医科大学における研修支援、ミャンマー医学研究会議(本年1月)における小出副理事長によるシンポジウム企画と岡大医学部からの6名の講演者の派遣、岡山県海外技術研修員として1名の研修生を岡山大学医学部で研修支援、ミャンマー国における肝炎対策、子宮癌検診センターの設立と技術支援、ホームページの管理運営実績などが審議承認されました。引き続き、会計報告、来年度の事業計画、事業予算についての審議が行われました。なお、20年度の会計報告に関しては森昭胤監事による会計監査をうけ、適正な内容であることの書面を頂いております。

【平成20年度会計報告】

| 科目 | 金額(単位:円) |
|------------------|-----------|
| I. 収入の部 | |
| 1. 会費・入会金収入 | |
| 入会金 | |
| 会 員 3,000円× 28人 | 84,000 |
| 賛助会員 10,000円× 1人 | 10,000 |
| 会 費 | |
| 会 員 6,000円×170人 | 1,020,000 |
| 賛助会員 50,000円× 6人 | 300,000 |
| 2. 寄付金収入 | |
| 理事・監事運営協力金 | 224,000 |
| 寄付金 | 273,032 |
| 4. 雑収入 | |
| 受取利子 | 1,304 |
| 広告収入 | 80,000 |
| 預り金収入 | 75,000 |
| 当期収入合計(A) | 2,067,336 |
| 前期繰越収支差額 | 2,820,032 |
| 収入合計(B) | 4,887,368 |

II. 支出の部

| | |
|---|-----------|
| 1. 事業費 | |
| ①ミャンマーの医療人と医療協力者の研修・研究会出席等の目的での来日を促進する事業 | 949,998 |
| ②医療に関与する国内協力機関、国内協力大学等に於いて来日ミャンマー医療人の研修、研究支援を行う事業 | 908,622 |
| ③大学間協定に基づく医療人及び医療関係者の研修研究を促進する事業 | 0 |
| ④政府機関、民間の援助団体、個人とも協力し人材交流・研究交流を図る事業 | 0 |
| ⑤ミャンマーにおける医療実践を支援する事業 | 109,404 |
| ⑥ミンガラバー等による組織活動の公表 | 278,460 |
| 計 | 2,246,484 |
| 2. 管理費 | |
| 会議費 | 53,920 |
| 光熱水費 | 168,112 |
| 通信運搬費 | 273,511 |
| 消耗品費 | 85,881 |
| 印刷製本費 | 19,835 |
| 支払手数料 | 22,515 |
| 計 | 623,774 |
| 当期支出合計(C) | 2,870,258 |
| 当期収支差額(A)-(C) | △802,922 |
| 当期繰越収支差額(B)-(C) | 2,017,110 |

「私のミャンマー」
初訪問記
会員 品川美和子

(前回のつづき)

慰霊祭を終えた午後全員で岡山大学と当会が共同研究しているミャンマー保健省医学研究局を訪れた。研究打合わせの後キン・ピヨン・チ局長に復興支援金等の贈呈が行われた。岡山理大付属中学校の生徒会が熱い気持ちで集めて下さったおもちゃ、タオル、文房具などと義捐金、それに加え岡山北西ロータリークラブからの金封が贈呈された。

この後、ム・ム・シユ主任(昨年の当会の研修医)の案内で構内の「子宮ガン検診センター」を見学する。ミャンマーで女性の死亡原因の第1位を占める子宮ガンの検診がサイクロン被災の後再開されていた。「岡山発国際貢献活動推進事業」が女性の健康と幸せに役立っているのを目にすることが出来た。別棟では岡大と共同研究をしている「肝炎クリニク」をエイ・エイ・ルイ主任(岡大医学部大学院終了)の案内で見学した。当会副理事長の小出教授から送られた診断のための超音波装置が、荷姿のまま出

番を待つように置かれていて頼もしかった。

その後、医学研修局からバスでかなりの距離を走って「ティダーミヤインクリニク」の建築現場に着いた。ここは以前もクリニクがあったが、サイクロンの直撃により腰までつかる高潮で総て流され、見渡す限りの大平原となった被災地である。殆ど手作業でセメントを練りバケツで運んで既に土台が出来上がり鉄骨の柱が立っていた。昨年私たちが募金した義捐金で再建されているとのことだ。今年5月には完成の予定、何と嬉しい



▲建設中のティダーミヤインクリニク

ことであろうか。応急処置で作られた粗末な小屋では診療が始まっていた。傍らに看護士の住まいも見えるがささやかである。単純に日本と比べることは出来ないが最低でも人々の健康を守るために国際社会はもっと力を貸してもいいのではないかと思った。こ

んな状況でも人々の表情は明るく、おおらかな様子に救われる思いであった。

帰国前日の7日にはヤンゴン市郊外の「ライン・タヤ下野クリニク」を訪問した。丁度土曜日で診療は無くポリオ・ワクチンの投与が行われていた。幼い子供を抱きかかえ母たちが集まってくる。周辺住民の方たちの喜びが伝わってくるようだった。この診療所で地域10万人の医療に当たっているという。隣接して「下野クリニク看護宿舎」が5月に完成予定と聞き、更に充実しているだろうと思った。雑然とした周辺に比べ「下野クリニク」は雑草が刈られ整然とした姿であった。

5日早朝のプロペラ機で1時間バガンに着く。世界三大仏教遺跡といわれるこの地は、御多分に洩れず白や赤茶けた地肌をさらしている仏塔が無数点在し360度パノラマの幻想的な風景であった。塔が見え始めると「あつ、ほんた。修復されてる」と岡田先生が声を上げられた。20年程前、始めて先生がこの地を訪れた時バゴダや寺院の頂上部分は皆崩れ落ちて雑草に埋もれていたとのこと。ミャンマーに平和が戻り、やっと観光地として復興する国

力が出来たということであろうか。痛々しい思いがしたと同時にここは何時までもあまり手を入れずに残しておきたい貴重な文化遺産だとも思った。

2日間かけて「シユズイーゴオン・バヤ」「ティローロミインロー寺院」「アーナンダ寺院」「タレイユ寺院」「シユエサンダー・バヤ」「ダマヤツズイカ・バヤ」のバガンを代表する有名なバゴダや寺院を、その度に裸足になって巡った。翌日は遠出をしてナツ信仰の聖地・ポツパ山へ出かけた。777の急階段を登らねばならない。私の体力では登れないので麓で待つことにする。まるで天空の城塞としか見えない寺院であった。途中、椰子の樹液から酒や糖を手作りしている素朴な店に立ち寄りしたり、ここで韓国の若い研究者達との思わぬ出会いもあったりして実に楽しい日であった。

郊外の「ニヤウンウーマーケット」では人々が露天に



▲ニヤウンウーマーケット

広報室から

暑い日が続きますが、みなさんいかがお過ごしでしょうか。さて同封のちらしでもご案内しましたように、来る9月3日より6日間のミャンマー旅行を計画いたしました。

旅行の企画運営は(株)西日本ツーリストにお願ひしています。お知り合いなどに声をかけていただければ是非参加していただきたいと思ひます。ミャンマーの魅力を知っていただく、よい旅行になると思ひますので初めての方も何度も行かれた方も大勢のご参加をお待ちして



▲ミンガバ村の子共たち

エイ・エイからのメール

お世話になった先生達へ
長らくご無沙汰しておりますことをお詫び申し上げます。

まず最初に診断用の超音波画像装置とC型肝炎遺伝子研究に必要な化学薬品を送って下さいましたことをお礼申し上げます。私はほとんど毎日、肝炎ウイルス保因者クリニクの管理運営をおこなっています。

おります。お問い合わせは直接西日本ツーリストの担当宮崎さん、もしくは西山、河原までお願いします。

また駅前町の事務所の二室をミャンマーの写真パネルや物産品などを展示したり親睦会をする場所として開放したいと思ひています。土曜日、日曜日など皆さんが気軽に集まって会の活動を広く知っていただく場所としたいと思ひます。会の繁栄ある未来を願って名前も「ミョーリンジェ・エイン(希望の家)」といたしました。今2名の研修生が来岡していますので彼らを囲んでの親睦会もここで開きたいと考えています。準備が出来次第詳細をお知らせしま

前任医師が退職してからずっとです。私はC型肝炎、B型肝炎の患者に超音波画像診断をおこなっていますが、その器械は先生から寄贈されたものです。器械はトラブルなく動いておりますし私が以前使っていた物より優れています。この器械の操作では画像をコンピュータに保存すれば良いので(注：以前の器械は1回ごと画像を打ち出していた)そのことに最善の努力を払っています。現在はC型肝炎ウイルスの

遺伝子型研究を行うために、そのままと倫理委員会を通す準備をしています。私が超音波装置を使って

いる写真を添付します。皆様にもよろしくお伝え下さい。先生達は今度いつヤンゴンに来られますか?心

からお待ちいたしております。感謝を込めて
エイ・エイ・ルイ

注：エイ・エイは小出理事、真治理事の下で、大学院博士課程を修了し昨年帰国。帰国後、肝炎検査治療の指導的立場に昇任。



▲超音波装置で診療中のエイ・エイ